

子どもにとって、お父さん、お母さんの存在は大きなものです。両親のぬくもりを感じながら日々成長しています。

しかし、共働き世帯の増加など、子どもとのふれあいがじゅうぶんでないことも。そんなとき、絵本を開いてください。会話を交わしながら読んでください。絵本がコミュニケーションの場を与えてくれます。ふれあいの場を与えてくれます……。

わが子のために

— 親子の間で読み聞かせ —

絵本は
コミュニケーションのとれるふれあいの場です

子どもには、1歳のころから絵本を見せてあげていました。そのせいか、今では絵本が大好きなようです。小さいころから絵本と接していると、感受性が豊かになりますし、子どもの成長には欠かせないものだと思います。

保育所からは毎週のように絵本を借りてきます。読んであげると、とても喜ぶんですよ。絵本を読んであげるときには、登場人物になりきり、会話は会話らしく読み、親子いっしょに楽しんでいきます。

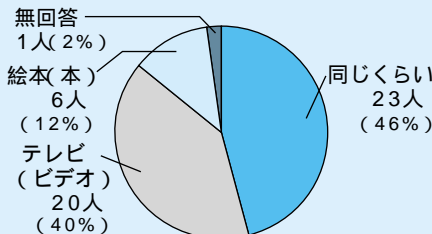
わたしたち親子にとって、この時間はコミュニケーションのとれる、ふれあいの場になっています。



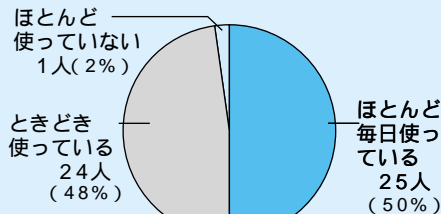
せい の りつこ めぐみ
清野 律子さん 萌美ちゃん
(新白岡)

保護者のかたに聞きました 50人アンケート

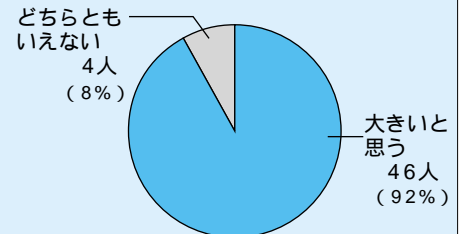
Q1 子育てでは、絵本(本)とテレビ(ビデオ)のどちらを多く活用していますか



Q2 子育てに、絵本(本)を活用していますか



Q3 子どもの発育にとって、絵本(本)が果たす役割は大きいと思いますか



幼少期の子どもとついでに 絵本はたいせつな出会いです。

子どもは、お母さんの
生の声で安心する

お母さんは、子どもが生まれる
と話しかけますよね、すると、そ
れに反応して子どもはいろいろな
表情をします。そう、お母さんの
声をまず覚えるんです。お母さん

が絵本を読んでくれるときの優し
い声の暖かさは、さびしいときは
心の支えになり、うれしいときは
暖かく心を和ませてくれます。そ
して、絵本を見ながら言葉を覚え
たり空想をめぐらせます。幼少期
の子にとつて、絵本はたいせ
つな出会いなのです。

絵本を開いて、親子で
ゆったりとした
時間を過ごして

子どもたちへの絵本の貸し出し
は町内全ての保育所で実施してい
ます。絵本を借りていく子どもた

ちを見てみると、気に入った絵本
を何度も借りていくのを見かけま
す。子どもが本当に好きになった
絵本は、ご両親が買ってあげてほ
しいと思います。その子は、その
絵本をとてみたいせつにすること
でしょう。

「絵本を読む」ということは、
忙しい親にもできる親子のふれあ
いです。寝る前の10分間でもいい
から、親子で絵本をいっしょに見
て、ゆったりとした時間を過ごし、
コミュニケーションを深めてほし
いと思います。



高岩保育所
やまざき かな子 所長



保育所での 絵本の貸し出し

町内全ての保育所（千駄野保育所、西保育所、高岩保育所）で、保育所に通っている子どもたちに対して貸し出しをしています。貸し出しは毎週火曜日、1人3冊までです。絵本を大事にできる年齢からということから、3歳児から貸りることができます。絵本の貸し出しを始めて、今年で25年目になります。



絵本の貸し出し時間になると、本棚の前は子どもたちでいっぱい。

—— 韓国のお母さんは ——

絵本を読むと、親兄弟を たいせつにする心が 自然と養えるんです

ウリナラ
イエツナル イヤギ
(わたしの国の昔話)



韓国でも、お母さんはよく子どもに絵本を読んであげています。昔話のものから、最近では登場人物のシールを貼りながら読むものまで、いろいろな種類の絵本を読んであげています。読んであげるときは、お母さんのひざの上であったり、寝るときだったり。子どもはお母さんのぬくもりを感じながら聞いています。絵本には、親兄弟をたいせつにする話がかかれていますので、子どもたちは幼いころから自然に家族愛を学んでいくんですよ。

絵本は想像力を育て、心の豊かさを創るので、子どもに読んであげるとはとてもよいことだと思います。



カン ミョンナム
姜 明男 さん(小久喜)